


古代からヒスイの世界的産地として、また地球物理学的(地質学というべきか)にはフォッサマグナで有名な糸魚川。著者は、近年しきりと出身地である糸魚川の風物や歴史を題材に随想を本誌に寄せておられる。もう一つ、著者の一身上のできごととして、生涯すりこまれていた体験に日航機ハイジャック事件がある。このほか、日航勤務の医師として、搭乗員の健康管理は重い職務であり、昭和52年4月の羽田沖事故も忘れ得ぬことであった。

空に生きる男達と共に

年毎に募る古里への愛着も



—8は、高度6000フィート

より事故を起こしたK機長が、それ以前から奇妙な行動をとり、内部調査でA機関士が福岡行きのフライトに同行、機長の様子を観察する任務を負った。事故の起きた当日、羽田空港を飛び立ったDC

に達し大きく左へ旋回した。そのとき突然機長が操縦桿を前に倒した。幸いA氏や副操縦士の冷静な行動で、大惨事を免れたが、翌日、福岡から羽田へ帰途のフライトで、落ち着きを取り戻したかに見えたK機長は、着陸直前で操縦桿を異常操作、あの事件を引き起こしてしまった。

A氏としては何故、K機長を“告発”できなかったか二十年余り悩みを抱えてきた。健康管理体制の不備、ドクター個人に責任を転嫁できない——機長家族の生活もある。晩年、病床での告白を聴いた著者は3で産業医とは何かを問うている。

最後に、現在の医療制度についての講演原稿を載せている。民主党議員へのレクチャーで「医師不足と医療崩壊」をテーマに、改善すべき点を詳細に述べている。結論としては

▽勤務医の給与を大幅にアップする▽女性医師の復職増を促すため、勤務態様を調整改善する▽医療事故の原因究明を中立的機関によって行う

さらに、安全性や周産科医療に触れているほか、若い医者を一定の期間、義務として地方に行かせる——と提言している。大変、結構だと思う。(a)